

明治安田生命社会貢献プログラム

「エイブルアート・オンステージ」スタート

～障害のある人と共に作り上げる舞台芸術の世界～

明治安田生命保険相互会社（社長 金子 亮太郎）は2004年1月の新会社の誕生を記念し、新たな社会貢献事業としてNPO「エイブル・アート・ジャパン」（代表 嶋本 昭三）とともに、障害のある人たちの舞台芸術「エイブルアート・オンステージ」を実施します。

障害のある人たちの生活の質を高める芸術文化活動としては、従来から絵画や造形といった美術分野が中心でしたが、最近では**自らの身体を用いて表現をする演劇やダンス、音楽等の舞台芸術が注目**されてきています。（障害者の芸術文化活動の現状については、別紙②をご覧ください）。

今回の明治安田生命社会貢献プログラム「エイブルアート・オンステージ」は、**このような障害のある人たちの舞台芸術を企業・NPO・公募された各地の参加者で手ずから作り上げ、その発展・普及をめざしていく**という試みで、企業の社会貢献事業の取り組みとしては新しい仕組みのプログラムといえます。

事業の概要は次のとおりです（詳細は、別紙①をご覧ください）。

1. 全国各地で「舞台人養成講座」、**「舞台公演」**を開催

- ・各都市で、パートナー（各地の主催者）および参加者（障害のある人や健常者）を公募、演劇やダンス、音楽などの基礎を学ぶワークショップ「舞台人養成講座」を開催します。
- ・ワークショップやレッスンの成果としての創作的な「舞台公演」を地元で開催します。

2. 毎年7月に**「東京公演」**を開催

- ・地元での「舞台人養成講座」や「舞台公演」等の活動成果を発表するとともに、各地の取り組み事例を共有する場として「東京公演」を開催します。
- ・東京公演には特別参加として、海外の先進的な劇団やダンスカンパニーを招聘します。

3. **継続的な活動支援の実施**

- ・特に優れた活動と認められたグループには、舞台芸術に関する取り組みがさらに拡がることを目的に、継続活動のための公演経費の支援を行ないます。

＜2004年度 **パートナーの公募の実施**＞

今年度のパートナーを募集します。

詳細はエイブル・アート・ジャパン ホームページ

<http://www.ableart.org/AAonstage> をご参照ください。

（応募締め切り）2004年8月31日（火）

明治安田生命社会貢献プログラム

「エイブルアート・オンステージ」の内容

1. 事業名称

明治安田生命社会貢献プログラム「エイブルアート・オンステージ」

2. 主催

明治安田生命保険相互会社

エイブル・アート・ジャパン

3. 実行委員（敬称略）

永井多恵子（世田谷パブリックシアター館長）

木佐貫邦子（舞踏家、K・身体表現教室主宰）

平田オリザ（劇作家・演出家、桜美林大学助教授）

野村 誠（作曲家）

吉野さつき（ワークショップ・コーディネーター、アートマネージャー）

山本 芳夫（明治安田生命保険相互会社専務取締役）

播磨 靖夫（エイブル・アート・ジャパン常務理事）

<ご参考：実行委員の役割>

- ・本事業のプログラムに対するアドバイス
- ・本事業の社会的理解や関心向上に向けた活動支援
- ・その他本事業推進に関する総合的な指導・助言

※この他、本事業推進にあたってテクニカルな面を含めた専門的なアドバイスを
するアドバイザリースタッフ団を構成します。

4. 事業目的

- (1) 障害のある人たちに、演劇、ダンス、音楽などの舞台芸術の分野で、自らを表現する機会を提供するとともに、その普及を図ります。
- (2) 舞台芸術に関わる人が、障害のある人との協働を通して、障害のある人の可能性や舞台芸術の可能性を発見します。
- (3) 障害のある人の舞台表現に関わる指導者、スタッフの育成を図ります。

5. 事業の概略

- (1) 毎年10都市（延50都市目標）で、障害のある人とともに作る舞台人養成講座（ワークショップ）を実施します。このワークショップにおいては、演劇、ダンス、音楽などの基礎を学び、舞台人としてのレベルアップを図ります。
- (2) 各都市では、その活動の成果としての舞台公演（地元公演）を開催します。

- (3) 各都市における舞台公演を受けて、東京公演を実施します。
東京公演に際しては、毎年1グループ海外の劇団やダンスカンパニーを招聘します。
- (4) 特に優れた活動と認められたグループには、継続活動のための公演経費の支援を行いません。

6. 支援の内容

各地のパートナー（主催者）への支援は2段階にて実施します。

【第一ステップ】各地におけるグループの立ち上げから地元公演までの経費を提供します。

ただし、総予算の80%以下で150万円が上限です。

【第二ステップ】東京公演への参加費（15人分までの交通費、宿泊費、食費の提供）、および準備金20万円を提供します。

特に優れた作品に対しては、継続活動のためのその後の公演経費を一部負担します。

7. 実施スケジュール【2004年度公募の場合】

- 2004年7～8月： 各地のパートナー（主催者）の公募
2004年 9月： 各地のパートナー（主催者）の決定（書類選考）
2004年 10月： 各地におけるオーディション（参加者募集）の実施
2004年 10月 各地における「舞台人養成講座」（ワークショップ）および
～2005年2月： レッスンの開催（複数回）
2005年2～3月： 各地における「舞台公演」（地元公演）の開催
2005年 7月： 東京公演の開催
2005年 7月～： 継続活動の展開

(注)「エイブル・アート・ジャパン」について

エイブル・アート・ジャパンは、障害のある人たちの芸術文化の総合的な環境整備を図ると同時に、障害のある人たちのアートを通して、「芸術の社会化・社会の芸術化」をめざすNPO（民間非営利組織）。

1994年に日本障害者芸術文化協会として発足、翌1995年には「エイブル・アート・ムーブメント（可能性の芸術運動）」を提唱。展覧会、シンポジウム、ワークショップの実施、調査研究事業、出版活動、海外交流事業などを行なっている。

また、「人間が幸福になる」をキーワードに、アートによるソーシャル・インクルージョン（社会的包括）活動を推進している。

会 長＝嶋本 昭三（現代美術家、宝塚造形芸術大学教授）

事務局＝東京都中野区東中野 4-4-1 ポレポレ坐ビル 3階 電話：03-3364-2140

～舞台芸術を中心に～

障害者の芸術文化活動の現状について

障害のある人たちの生活の質を高め、生き方の選択の幅を広げる活動として、芸術文化活動への関心が 1990 年中頃から急速に高まってきました。アート活動を主体とした福祉施設が誕生したり、障害のある人を対象にしたアトリエ活動も増え続けています。公立の美術館が障害のある人たちの作品を展示することも稀ではなくなってきました。しかし、それらの活動の多くは、絵画や造形といったいわゆる美術の分野に偏っているのが現状です。

舞台芸術（パフォーミングアーツ）の分野において、創造性を発揮することが得意な障害のある人も多いにもかかわらず、**指導者の不足や先駆的事例の少なさ、指導方法の未確立、発表の場が限られていることなどから、美術にくらべ格段にその取り組みは遅れているといえます。**いくつかのグループの取り組みを除くと、美術ほどに社会にインパクトを与えたり、高い評価を受けるには至っていないというのが現状です。一方、海外に目を向けると、障害のある人たちによるプロの劇団やダンスカンパニーが多く存在し、かれら自身が主役となる映画や舞台などで活躍している事例も少なくはありません。**このことから障害のある人たちの表現活動が、美術ばかりでなく舞台芸術の分野においても大きな可能性を秘めているということが出来ます。**

こうした現状をふまえ、エイブル・アート・ジャパンは 2003 年度に「エイブルアート・舞台人養成講座全国展開事業」を実施しました。全国 6 グループの協力を得て、各地で障害のある人たちとプロの舞台人たちが、ともに作品づくりを行ない、今年 3 月には東京に一堂に会し公演を行なったのです。演劇、ダンス、身体表現、音楽、映像など、さまざまな表現を組み合わせたり、障害のあるなしを越えてそれぞれの存在を生かした、これまでにないユニークで実験的な舞台が次々に披露されました。（次ページの写真参照）

この経験から、**障害のある人の舞台芸術分野での可能性を改めて認識するとともに、プロの舞台人にとっても障害のある人とのコラボレーションは創造性に満ち、大いに刺激的であることが証明されました。**

そこで、明治安田生命保険相互会社およびエイブル・アート・ジャパンは障害のある人たちの舞台人養成講座を、本格的に全国展開し、障害のある人の舞台芸術分野への参加機会を提供するとともに、障害のあるパフォーマーを養成したり、かれらの可能性を広く社会に提示したり、さらにはこの分野の指導者の養成、舞台環境のソフト、ハード両面のバリアフリー化などをめざすことにしました。これまで、**その可能性が過小評価されてきた障害のある人たちの表現力を、プロのダンサー、俳優、演出家などが関わることで、大きく開花させ社会に提示しようというまったく新しい試みがスタートします。**

演劇、ダンス、音楽、映像など、さまざまな表現を組み合わせ、
障害のあるなしを越え、それぞれの存在を生かしたユニークな舞台



於：国立オリンピック記念青少年総合
センター小ホール
(2004年3月13日)

明治安田生命保険相互会社の「社会貢献事業」について

分野	事業・活動	概 略	展開開始時期
社会福祉	役職員募金による「ふれあいコンサート」	役職員による募金で運営する、障害のある子どもたちに生の音楽を届けることを目的とした、ザ・ワイルドワインズの鳥塚しげきさんによる「障害のある子どもたち参加型」の手作りコンサート事業。	1984年
	ボランティア活動振興・助成	全国で活動している市民参加型の福祉団体の振興を目的とした助成金贈呈事業。特に、高齢者・障害者への配食サービスを提供している団体を重点的に支援・助成している。	2002年
	職員のボランティアによる「愛の声かけ・配食運動」	高齢者・障害者への配食サービスを職員のボランティア活動によって支援する事業。ボランティア登録をした職員が、それぞれの地域で地元のボランティア団体と一緒に活動できるよう会社がバックアップしている。	1996年
	「エイブルアート・オンステージ」	障害のある人たちに、演劇、ダンス、音楽などの舞台芸術の分野で、自己を表現する機会を提供する事業。全国各地における「舞台人養成講座」「舞台公演」および「東京公演」を開催。	2004年7月
地域貢献	MYコミュニティ基金	役職員による募金で運営する基金で、職員の地域貢献活動を支援するための助成金事業。次の3つのプログラムを用意。 ① 職場の行なう寄付に上乘せするための助成。(マッチング・ギフト・プログラム) ② 職員が行なうボランティア活動に対して行なう助成。(ボランティア活動資金プログラム) ③ 職員が支援している街づくりの非営利団体に対する助成。(コミュニティ市民活動支援プログラム)	1997年
国際協力	役職員募金による「愛と平和のチャリティ・コンサート」	世界ボランティア・デー(12月5日)にあわせ、役職員募金にて開催する「愛と平和の祈り」を込めたチャリティ・コンサート事業。(財)日本フィルハーモニー交響楽団等のコンサートを当社店頭ロビーにて開催、来場者に対しアフガン難民救援募金を実施している。	2001年
	「ジョン万次郎記念センター」支援	同財団は日米両国の市民が草の根レベルで意見交換・交流を行なうことを主な目的として事業展開をしている。この活動趣旨に賛同、支援を行なっている。	1992年
	「アジアの子どもの絵日記展」協賛	三菱広報委員会(加盟44社)が行なう、アジア太平洋ユネスコ協会クラブ連盟、日本ユネスコ協会連盟との共催事業に参画。アジアの子どもたちの絵日記を通じて、アジアの本当の姿を知りお互いの理解を深めることを目的にしている。	1990年
教育	黄色いワッペン贈呈事業	全国の新入学児童を対象に交通安全運動キャンペーンの一環として交通事故傷害保険付「黄色いワッペン」を贈呈する事業。当社、みずほFG、損保ジャパンなどによる共同事業として実施。	1966年
環境	環境絵画コンクール協賛	小中学校の先生により組織される「全国小中学校環境教育研究会」が主催する「全国小中学校環境絵画コンクール」に対する協賛事業。環境をテーマとした全国絵画コンクール。当社、丸紅、みずほFGによる共同事業で、毎夏協賛各社参加の表彰式を実施。	1997年